

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
2009年10月1日発行
隔月発行・通巻No.170
小誌はホームページからも見られます



無尽灯（むじんとう）



台ランプ



箱提灯（はこちょうちん）



鉄行灯（てつあんどん）

誌上ギャラリー

これらは幕末から明治初期にかけて使われた灯りの道具です。行灯と無尽灯はタネ油、提灯は蠟燭、ランプは石油が燃料です。川崎市市民ミュージアムには、川崎市の故・大島茂氏からご寄贈された資料を中心に、約2000点もの灯火具コレクションが所蔵されています。

2009年10月24日（土）から2010年1月11日（月・祝）まで開催される企画展、「灯（あかり）の情景」-灯りと人の物語-では、所蔵コレクションの中から日本の灯りの移り変わりをご紹介します。行灯や石油ランプのあかりのもと、人々ほどのような夜を過ごしたのか、時代ごとの灯りとその情景に思いをめぐらせていただき、現代の灯り（照明）についても考えてみてはいかがでしょうか。

もくじ

- 2 まち・ひと・多面体
- 3 シニアのパレット
- 4 特集 再開発がすすむ小杉駅周辺
- 6 情報ポケット
- 7 施設めぐり



(財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085

<http://www.kpal.or.jp/>
ステージ・アップ TEL 044 (733) 5811
E-メール: stage-up@kpal.or.jp

当財団は市民の主体的な学びと活動を支援するため諸事業を推進しています。

まち・ひと・多面体

地域やグループ等のユニークな活動や注目すべき地域課題への取組みの成果などを紹介します。

真っ赤なお鼻のキッズクラウン

アルテリオ・パフォーマンス・スタジオ Vol.3
— Be A Clown! 2009 —



川崎市アートセンター

“こどもとアーティストがつくる舞台 Be A Clown (ビー アクラウン)” が始まりました。昨年も行われたこの企画は、プロのアー

ティストの指導を直接受けられるもので、川崎市アートセンターが、青少年舞台芸術教育・育成事業として、市内の小学校3年生～高校3年生を対象に公募をしました。

Clown (クラウン) とは、英語で『道化師』を表します。日本では、サーカスのピエロが有名ですが、ピエロもクラウンのキャラクターの一人です。国内外の劇場で活躍中のクラウン劇団“OPEN SESAME”

RONE&Gigi (ロネ&ジージ) を講師に迎え、技術の上達や習得だけでなく、皆と協力することを大切にしながら進められています。クラウンらしい動



きや表現を行うクラウンやジャグリングの練習をはじめ、自分で決めたクラウンのキャラクターを表現するために、メイクまで自分で考えてできるようにします。「伝えたいこと、表現したいことはたくさんイメージしましょう。そうすれば伝わります。」「必ずできるからあきらめないで」など、講師の一つ一つの言葉かけが、自分の目標をもって取り組んでいる子どもたちに染み入るように伝わります。子どもたちは「楽しいことでも苦しくなる時があるが、それを乗り越えたときの喜びを味わって欲しい。」というプロの姿勢を肌で感じ、成長していっているように思われます。

数年後、この中からプロのクラウンが生まれるかもしれません。

発表公演は、参加した子どもたちの個性を引き出す構成で、完成度の高い舞台を目指します。

発表公演

Be A Clown! 2009

2009年10月31日(土)

13:00～

18:00～

11月1日(日)

14:00～

★問合せ・チケット

川崎市アートセンター ☎044-955-0107



落書きを消そう!

落書き戦隊ケスンジャー



悪口が書かれた落書きを発見し、嫌な気持ちになったことがきっかけでした。平成17年、当時菅生小学校6年生だった子ども達が、いつも遊んでいる公園の滑り台に書かれた友達への悪口を見て、「消そう」と仲間呼びかけ『落書き戦隊ケスンジャー』の活動が始まりました。タワシで擦り消していたのですが、消しても消してもすぐに書かれてしまうので「ペンキで塗りたい」と考えました。しかし、ペンキ代や公園の許可など様々な問題がありました。周囲の大人は、子どもたちの自主性を大切に、問題解決に助言や協力をしながら見守ることにしました。ペンキ代をバザーで集め、その後の川崎市公益活動助成金申請もプレゼンテーションは子ども達だけで行いました。

活動を始めて3年、昨年11月にはメンバーが高校受験を控え、月1回行っていた活動も難しくなりました。「休止しよう」と決め、その先のことは白紙にし、それぞれの進路に向け取り組みました。受験が終わり、中学校の卒業を迎え「ど

うしようか」と考えたとき、「自分たちの街から落書きを無くしたい」という気持ちを持ち続けていることに変わりはありませんでした。

8月1日(土) 国道246号線の防音壁の落書き消しは、『落書き戦隊ケスンジャー』の呼びかけで、宮前区の『地域課題の解決を図る事業提案制度』の助成を受けて行われました。防音壁沿いの市営住宅の方、体験ボランティア、公募で参加された方、宮前区役所の方、総勢80名が参加しました。今までの活動と違い、大勢での落書き消しに少々戸惑いながらも、広範囲の落書きがきれいに消え、たくさんの方々の参加と理解に充実感を感じているようでした。

「仲間がいるから続けていける」と、この先、年1~2回ケスンジャーの活動をしたいと考えているそうです。「活動を続けていけば、理解して協力してくれる人も増えていくと思う」というしっかりと先を見ながらの意見に頼もしさを感じ、これからの活動に期待がもてました。

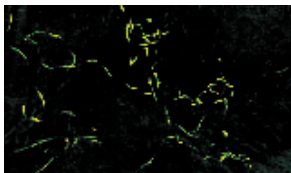
★問合せ 蔵敷子ども文化センター ☎044-977-2577



活力！高津区市民健康の森で生き生き 健康！

高津区市民健康の森を育てる会

幻想的なホタルの乱舞に興奮



撮影 杉田 武氏 (梶ヶ谷)

「あっ、飛んだ！飛んだ！」
「すごい！すごい！」、ホタルの乱舞に、思わず興奮して大声をあげてしまった大人の人がありました。うちに止まったホタルを自慢げに両親に見せる幼い姉妹。帰る道でも興奮を抑えきれず「本物のホタルを見たね」と子どもに嬉しそうに話しかける父親。これは、高津区市民健康の森の中にある『たちばなふれあいの森』でのホタル鑑賞会です。陽が傾き、辺りに宵が訪れ始めたとき、黄金色に輝くホタルが一つ二つと湧き水の出るせせらぎに光の筋を描き始めました。鑑賞会に来た人たちは、せせらぎにある竹林を幻想的に乱舞するホタルに感動していました。

このホタルの鑑賞会を運営しているのは、高津区市民健康の森を育てる会のホタル部会の人たちです。

高津区市民健康の森

高津区市民健康の森は、川崎市立橘小学校の南に広がる、『たちばなふれあいの森』と『春日台公園』からできています。

高津区市民健康の森を育てる会2代目会長の山田利雄さんは、2001年の森をつくる準備委員会から参加し、「自分たちが育った遊具のない里山の原風景の森をつくり、次世代の子どもたちに緑の里山で遊ぶ体験をしてほしい」という考えをもっていました。

育てる会発足当時の里山は、それまで手入れされていなかったため、孟宗竹や葛などが生い茂り、人を寄せ付けぬようなジャングルのような所もあったそうです。

会員たちは、竹や葛などを刈り、不法投棄された様々な物を取り除く作業に2年間ほど費やしましたが、森は風通しがよくなり生き生きしてきたそうです。整備された里山には、クスギやナラ等の広葉樹も植えられました。



高津区市民健康の森へのアクセス

「溝口」駅北口バスターミナル8番乗り場より
東急バス溝22系統「蟹ヶ谷」行き乗車
♀「橘小学校前」下車徒歩10分

シニアのプレゼント

この市民健康の森を育てる会には、『ホタル部会』と『森活動部会』があり、会員は自分の希望や好み、特性を生かしながらそれぞれの部会に所属し、活発に活動しています。

ホタルを守り育てる

豊かな自然環境の結晶といわれるホタルが、大都会の里山で見られるのには、ホタルを守り育てているシニアの方々の努力があります。ホタルの幼虫は、会員の有志が飼育し、2月中旬頃森のせせらぎに放流され、5月の下旬頃から飛び始めます。餌となるカワニナを集めることは大変で、会員自ら森で飼育したり田舎からも送ってもらったりして確保しています。

ホタル鑑賞会では、部会の人たちが幹線道路からの道々に案内に立ち、会場ではホタルに関する掲示や説明もあり、ホタルをデザインしたうちわも配られていました。

今年の鑑賞会には、10日間で約6,600人が訪れたそうです。部会の人たちは、ホタルの乱舞を堪能して帰る人たちに、道々で「ありがとうございます」という素敵な声をかけていました。見に来られた人は、幻想的なホタルの乱舞と会員の方の温かい言葉に、とても幸せな気持ちになったことと思います。

森で活動するシニアの方々

春日台公園の森では、朝のミーティングが終了すると同時に、花や樹木の手入れ、ジャガイモの収穫等が始まります。公園の雑草は、草刈機を見事に使いこなす人で、刈り取られていきます。ヘキサチューブ（苗木を保護する六角形状の筒）で保護された苗木も生き生きとしています。落ち葉を集めた囲いの中で元気に動き回っているカブトムシは、会員が栃木のカブトムシセンターまで行って研修してきた成果です。苗をつくり植えられたサツマイモは順調に育ち、サツマイモ堀体験で楽しむ子どもたちの姿が目に見えます。



森を整備するために切られた竹は、会員の手で竹炭にされ、建設センターの協力を得て「二ヶ領用水の浄化」のために久地の円筒分水の出口に沈めました。また、「福祉施設」などにも活用され、森の活動が社会貢献にも繋がっています。

高津区民祭をはじめ地域の様々な祭りには、多くの会員が参加しています。そこでは、竹炭や竹酢液、カブトムシ等の他に見事な竹細工を作り出店するなど、森の活動をPRしながら祭りを盛り上げています。

シニアの方々の森での活動は、地域の活性化や社会貢献に繋がり、自身の健康に繋がる素晴らしいものであると感じました。

シニアに視点をあてた 耳よりな情報

特集

「交流」と「にぎわい」あふれる ヒューマンなまちをめざす小杉



川崎市で1番人口の多い中原区、その中でも武蔵小杉駅周辺の人口増加は著しいものがあります。武蔵小杉駅周辺は、工場跡地に高層マンションが建ち、平成22年に開業する横須賀線新駅や公共施設の移転、道路整備などで街の景観や生活が大きく変わろうとしています。今回の特集では、再開発が進む小杉の様子とそこに関わる人々の働きの一端を取り上げていきたいと思います。

小杉地区は、川崎市の中央部に位置し、JR南武線及び東急東横線・目黒線が交差する交通結節点にあり、平成22年の横須賀線武蔵小杉新駅の開業をはじめ新しいまちづくりへ向けての整備が進んでいます。

川崎市の「小杉駅周辺まちづくり推進地区構想」の策定では、武蔵小杉駅周辺地区を「民間活力を生かした魅力ある広域拠点の形成を図る地区」として位置づけています。特に、JR南武線の南側における、商業、業務、都市型住宅を中心とする武蔵小杉駅南部地区及び中丸子地区、研究開発・業務施設を中心とする武蔵小杉駅東部地区などにおいて、地区計画などの都市計画手法を活用した計画的なまちづくりが進められています。また、新たに都市型住宅に高度医療施設、教育施設を含めた北側地区の開発計画も検討され、さらに人口が増えることが予測されています。

これまでの武蔵小杉駅周辺は、交通利便性が高い地区であるにもかかわらず、狭い道路幅員に加え、一方通行や行き止まりが多く、変電所や駐車場などもあり、駅前にふさわしい土地の有効利用ができていませんでした。また、放置自転車が多く、歩行者の安全確保が難しい状態でした。このような課題の解決も含めて、「歩いて楽しいまち」「環境共存型のまち」「豊かに暮らせるまち」を基本コンセプトとして、交流とにぎわいがあふれるヒューマンなまちづくりが進められています。

《防災の拠点》ホテルと併設された中原消防署

拡張整備が進んでいる綱島街道沿いに移転した中原消防署は、川崎市消防局に次いで、地震の揺れを吸収して地震のエネルギーを建物に伝わり難くした免震構造の建物となりました。また、市の中央に位置し交通の便もよいので、全市へ救援活動の職員派遣や救援物資を搬送する防災拠点となり、大震災時に迅速に対応できるように、震災工作車（市に1台）や「大型ポンプ車（ホース延長車と連携し多摩川等遠くから給水可能）」、防災資機材運搬車や最新式のはしご車なども配備された消防署となりました。

さらに、川崎市は、消防署とホテルを併設して建てるこ

とにより、「災害時におけるホテル施設利用に関する協定」を締結し、地域住民の避難場所を確保するとともに土地の有効活用を図りました。

山口高広署長は、「日頃から地域に積極的に関わり、住民の生の声を聞き、連携、密着、融合を大事にして『安心・安全』を全体で考えていきたい」と話してくれました。



《暮らしやすいまちづくり実現への試み》

～NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント～

NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントが設立されたのは平成19年4月。平成15年度から議論・検討を重ね、市民の代表・商業者の代表と周辺町内会の代表の方々を中心となって法人登録へと至りました。規模の大きさや会費収入による運営は全国的にも例のない試みで、地域のコミュニティーを形成・育成しながらまちを育てていく活動に重点を置き、真に豊かな地域社会の実現、広く公益に貢献することを目指しています。



子育ての情報や先輩ママからのアドバイス

新しく住む方々にとって、暮らしに密着した情報が少ないことは不安を感じるものです。特に子育てをしている方は、子どもを取り巻く環境の不安もあります。

小杉駅周辺エリアマネジメントでは、ホームページの開設や月刊エリアマネジメントの作成・配布をする事で地域の情報発信を行っています。また、「パパママパークこすぎ」や「こすぎこども探検隊」では、顔見知りになることから始め、輪を広げていけるような活動をしています。「同じマンションだったの？知らなかった」とメールアドレスを交換したり、「泣いたらすぐに抱っこするのはどうだろうか」とか「子どもの虫刺されがひどいのだけれど、皆さんどうしていますか」など日頃気になっていることを話題に、パパママの疑問解消のお手伝いをしています。時には、「今はまだいっぱい愛情をあげるときですよ。手が空いたら抱っこしてあげましょうよ」と先輩ママからアドバイスを受けることもあります。



市民の手によるまちづくり

コミュニティーの輪をつくることは防犯につながり、それが安心・安全なまちづくりになります。また「自分たちのまち」という意識が生まれることでまちをきれいにする心が育ち、まち全体の活気にも影響します。毎週水曜日の朝の清掃活動や、市から委託の自転車放置防止活動にも力を入れ、住み易いまちの維持・発展に努力しています。これらの活動には、シニアの方々のパワーが重要な役割を果たしていることは、言うまでもありません。



初めの一步

全国的にも例のない活動のため、手探りの状態の部分も有り、できることから、ひとつひとつの積み重ねを大切に活動を展開しています。「道を歩いている時に、こども探検隊に参加した小学生から挨拶されるのですよ」と理事の村山十九男さんがうれしそうに話してくれました。「顔見知りになったということですね」。一歩一歩確実に足跡をつけながら進んでいる活動は、人と人との出会いから輪を広げていっているようです。「人と人とのつながりを大切にするまちづくり」を小杉から提案・発信していくことになりそうです。

★問合せ NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメント事務局
☎044-433-9180

新しくなった中原市民館・市民活動センター

パークシティ武蔵小杉ミッドスカイトワーの1・2階に移転した中原市民館は、利用者から「明るくきれいで、駅から近いので便利」・「市民活動センターが1階の連続性のあるフロアにあって利用し易い」などの声が聞こえてきました。施設の利用や見学を兼ねて、飲食・休憩用ラウンジで、一休みはいかがでしょう。

市民活動センターの『フリースペース』は、「打合せや相談に予約なしでいつでも使える」と大好評です。また、有料ですが『市民活動ブース』も特色のひとつで、市民活動団体に事務スペースを提供しています。

再開発計画が進んでいる施設

《横須賀線武蔵小杉新駅》 近々開業する横須賀線の新駅は、鉄道間の乗り継ぎを円滑化するため南武線武蔵小杉駅につながり、現在整備中の駅前広場を中心に、周辺の交差点の改良や歩道の整備がなされています。

《中原図書館》 利用者が非常に多いわりに手狭な現在の中原図書館は、駅に隣接するビルに入る予定で、本の閲覧がしやすく、貸出・返却もスムーズに行える新図書館に生まれ変わりそうです。

小杉駅周辺には、大きな駐輪場の設置も計画されており、再開発の進行がとても楽しみです。

情報ポケット

財団主催の各種講座のご案内やお知らせ

かわさき市民アカデミー フェスタ '09(学園祭)

2009.11.4(水)～11.19(木)

フェスタ(学園祭)はアカデミーに学ぶ受講生が、1年間の学習成果を発表や展示といった形で広く市民の皆様に公開しております。講演会、体験教室、フリーマーケット等多彩な催しを企画しています。(要申込が必要なもの以外は、当日自由に参加することができます。)

11月14日(土) 川崎市生涯学習プラザ会場

- ①「人といのちの文化史一人は何故病気になるのか」
10:30～12:00 基調講演
講師 黒木 登志夫(前岐阜大学学長、中原区在住)
病気とは何か。何故病気になるかを論じます。
- ②「和の世界・実演」—長唄・落語・ヴァイオリン演歌
13:30～15:00 演奏・実演 長唄 今藤 政智
落語 寝床屋 道楽 ヴァイオリン演歌 永吉 一郎
日本人の豊かな感性!! 庶民が好んだ音色・唄・話術!!
- ③「藤沢周平 山桜/驟(はし)り雨」
13:00～15:00 朗読発表会
演出 田中 恵子・宮蔭 秀子(フロンティア幹事)
藤沢周平の魅力に迫ります。
- ④未来に向けて考える「エネルギー・環境・発展」
15:00～17:00 講演・討議
講師 土井 彰(エネルギー環境教育情報センター専任講師)
環境を守り、少ない資源とエネルギーで生活する工夫を!!
- ⑤「アートセラピー体験」 教材費1,000円
13:30～15:30 体験教室
講師 西田 清子(日本臨床美術協会理事)
アートセラピーを楽しんでみませんか。
- ⑥「制作・展示」 10:00～15:00
・「どんぐり遊び」 ・「切り絵」 ・「古本市」
・「木工による身近なものづくり—写真と展示」
・「能面」展示 能面製作者 吉川 裕
- ⑦「陶芸展示」 10:00～17:00
- ⑧「ペアヨーガ」—リラクゼーション効果抜群—体験教室(要申込)
13:30～15:00 参加費 1組500円
講師 釧持 和子(生涯学習財団スポーツ教室講師)
- ⑨「キッズエアロ」&「エアロピクス」 体験教室 (要申込)
講師 日置 由紀子(生涯学習財団スポーツ教室講師)
・「キッズエアロ」 13:30～14:30 参加費 1組500円
(対象:就学前の子と親)
・「エアロピクス」 14:45～15:45 参加費 500円
- ⑩「フリーマーケット」 10:00～15:00
1F駐車場広場にて開催(雨天の場合は15日に順延)

11月15日(日) 川崎市生涯学習プラザ会場

- ①「イラン映画で見るイランの今」
10:30～12:00 講演
講師 佐藤 忠男(日本映画学校校長・映画批評家)
イランの人情と世相についてお話しします。
- ②「宇宙と自分を探る旅に出よう」
13:30～15:00 講演
講師 阪本 成一(宇宙航空研究開発機構-JAXA教授)
宇宙まで旅をし、私達はどのような存在なのか考えよう。
- ③「布草履を手作りしませんか」
10:00～12:00 実演 教材費300円
講師 持田ヒサ他(橘リサイクルコミュニティセンター講師)
色とりどりのリサイクル布で草履を手作りしませんか。
- ④「核廃絶への新しいうねり」
13:30～15:00 講演
講師 梅林 宏道(NPO法人ピースデポ特別顧問)
米国の元高官たちによる核廃絶のうねりが起っている。
- ⑤「生誕100年の太宰治を語る」
13:00～15:00 講演
講師 安藤 宏(東京大学大学院准教授)
生誕100年「太宰治」文学の魅力について語ります。
- ⑥「制作・展示」 10:00～15:00
・「切り絵」 ・「古本市」
・「木工による身近なものづくり—写真と展示」
・「能面」展示 能面製作者 吉川 裕
- ⑦「陶芸展示」 10:00～17:00
- ⑧「気功太極拳」 体験教室 参加費500円(要申込)
10:00～11:00
講師 小机 實(楊名時太極拳師範・生涯学習財団スポーツ教室講師)
- ⑨「親子体操」&「ストレッチ・リフレッシュ体操」
体験教室 (要申込)
講師 澤井 純子(生涯学習財団スポーツ教室講師)
・「親子体操」 13:30～14:30 参加費 1組 500円
(対象:4歳から小学生までの子と親)
・「ストレッチ・リフレッシュ体操」 14:45～15:45
参加費500円

野外会場 申し込みが必要です。

- ①11月4日(水) 新宿御苑 10:30～14:30
「秋の新宿御苑を楽しむ」
講師 石井 誠治(樹木医、森林インストラクター)
秋の新宿御苑の樹木や草花の観察を楽しみます。
- ②11月9日(月) 昭和記念公園 10:30～14:30
「秋の一日を自然の中で・・・」
講師 石井 誠治(樹木医、森林インストラクター)
身近に見られる草花を観察し秋の一日を楽しみます。

他の会場

- ③11月12日(木) 新百合21ホール
10:00～11:30「美術の裏側—名画の贋作をめぐって」
講師 岡部 昌幸(帝京大学文学部准教授)
名画には贋作がつきものです。
- ④11月19日(木) 川崎市国際交流センター
13:30～17:00 映像オペラ『アイーダ』を楽しもう
講師 花澤 幸男・榎本 悌次郎(オペラ研究者)
★申し込み・問合せ:☎044-533-2390

※都合により内容を変更することがありますので、その場合ご了承ください。 ★問合せ フェスタ実行委員会事務局 ☎044-733-5590

財団が管理運営する施設をご紹介します

施設めぐり

青少年の健やかな成長をめざして

青少年の家

～活動をとおして仲間づくり～

★問合せ ☎ 044-888-3588

川崎市青少年の家は、川崎市生涯学習財団とNPO教育活動総合サポートセンターとの共同運営による指定管理施設となり4年目を迎えました。青少年のための団体宿泊研修施設として、施設や設備の機能を最大限に活かし、多岐にわたる事業を展開しています。通年実施している事業で、幼児・児童・生徒を対象としているものは「エコチャレンジクラブ」「放課後おもしろクラブ」「よちよち歩きの子あつまれ」、青年を対象としているものは「川崎市青少年の家ユースワーカーズ倶楽部 (KYWC)」があります。

エコチャレンジクラブ

環境問題への理解と仲間づくり 12回/年

野外炊飯
多摩川でモッコ放流
水の浄化実験
芋掘りと焼き芋
餅つき
ポスター作り



放課後おもしろクラブ

課外活動の充実と仲間づくり

おもしろ造形教室
第2・4水曜日
おもしろ理科教室
第1・3水曜日
お箏であそぼっ！
第2・4水曜日



よちよち歩きの子あつまれ

子育てで交流と地域連携 4回/年

移動動物園
風船あそび
紙ふぶきシャワー
親子体操
たき火で焼き芋
ドングリ拾い



ユースワーカーズ倶楽部

青少年の家を拠点に青年の社会活動促進

定例会 2回/月
施設ボランティア
地域イベント協力
自主事業の企画運営
親睦交流会



子ども夢パーク

～こどもの夢を育み続ける～

★問合せ ☎ 044-811-2001

「川崎市子どもの権利に関する条例」に基づき、それを具現化するための施設として2003年7月にオープンしました。自分の責任で自由に遊び、ありのままにいられる場として、たき火や水遊びなどができるプレーパーク（冒険遊び場）やサイクリングロード・全天候型スポーツ広場・音楽スタジオ・ログハウス・乳幼児が利用できる部屋「ゆるり」・本や絵本が置いてある部屋「ごろり」・不登校児童生徒の居場所としての「フリースペースえん」などがあります。

夢パークは子どもたちがやってみたいと思うさまざまなことにチャレンジできる場です。そして、子どもたちも普段から泥や水で思いっきり遊んだり、火や工具を使って何かを作ったりと、やりたい気持ちを存分に発揮して遊んでいます。

夢パークでは、さまざまなイベントも行われています。7月20日（月・祝）には“夢まつり'09 6周年記念祭”が行われました。今年のテーマは「水遊びスペシャル」。タワースライダーや噴水、せせらぎ池のウォータースライダー、ちびっこコーナー等、いたるところで水遊びができました。他にも飛び入り歓迎のステージ「登龍門」や食べ物・手づくりおもちゃが並ぶ「レインボー商店街」などがあり、たくさん子どもや親子連れが楽しんでいました。



また、11月3日（火・祝）は、いつもの夢パークに子どもの商店街「こどもゆめ横丁」が出現します。日常の遊びをさらに発展させて、仲間を集め、自分たちで一から考えて工夫し、お店をつくり、本物のお金を使って商いをします。正に、本気になって遊べる機会です。去年は、食べ物屋さん、雑貨屋さんなど29店舗が軒を並べ1,400人を越す来場者がありました。今年も「自分たちの力でやり遂げたい！」という子どもたちの気持ちを大切にしながら、楽しいイベントを創り上げていきます。

◆こども夢横丁 2009年11月3日(火・祝)開催



夢まつり'09 6周年記念祭

(財)川崎市生涯学習財団 地域ふれあい事業

恒例のフリーマーケットを、
かわさき市民アカデミーの
フェスタに合わせて
開催します。



11月14日(土)

10時～15時
※雨天時は翌15日(日)

《フリーマーケット出店募集》

- ◆募集店数 25店 (1ブース約7㎡)
- ◆出展協力金 500円
- ◆出展募集期間
10月20日(火)9時～ 10月30日(金)16時迄
*詳しくは、川崎市生涯学習財団ホームページ
やチラシでお知らせします。

川崎市生涯学習プラザへのご案内



★問合せ フリーマーケット実行委員会
☎ 044-733-5560

「川崎市生涯学習プラザ」施設利用についてのご案内



室名	定員等	使用料金表(基本)※			
		午前 9:00～12:00	午後 13:00～17:00	夜間 17:30～21:00	全日 9:00～21:00
401 大会議室	144人	6,000円	7,000円	8,000円	21,000円
301 会議室	72人	3,000円	4,000円	5,000円	12,000円
201 会議室	72人	3,000円	4,000円	5,000円	12,000円
101 活動室	36.2㎡	1,500円	2,000円	2,500円	6,000円
302 多目的ルーム	124㎡	2時間 2,500円 延長1時間 1,000円			12,500円
402 フィットネスルーム	214㎡	1回目は9時から			



新設された『活動室』

※土・日・祝日の利用や用途によって割増料金がかかります。